

今回、長野県の ICT 導入モデル事業補助金により、ND ソフトウェアのほのぼのモアの拡張システムである、タブレット記録アプリ「ケアパレット」を 15 台導入しました。

ケアパレットとは、持ち運びできるタブレットの iPad を使用して、支援のその場で入力または音声入力する、「記録の ICT 化」をサポートするシステムです。

<https://www.ndsoft.jp/product/disability-welfare/carepalette>

特徴は

- ① タブレット操作により、キーボードに不慣れな高齢職員でもスマートフォン感覚でスムーズな入力ができる
- ② 申し送り事項、バイタル情報などをタブレット上で随時確認でき、利用者へ適切な対応ができる
- ③ 音声入力による入力時間の効率化が可能
- ④ NISSEI（日本精密測器株式会社）の機器と連携することで、バイタルデータを直接ほのぼのモアに連携が可能

となっています。

ケアパレットを導入した事業所の効果をご紹介します。

- ほっとハート親愛（生活介護）
バイタル情報が自動で転送されるようになり、入力が必要なくなった。
タブレットでも日誌の入力が可能になり、パソコンが全員使っていても待ち時間がなくなった。
タブレットの音声認識機能も使い、業務中にも入力ができるようになった。
超過勤務の削減ができた。パソコンの空きを待つ時間が無くなった。事務所以外でも日誌が入力できるようになり、休憩中に入力をするのがなくなったため、休憩が時間通りにとれるようになった。
- エコール親愛（放課後等デイサービス）
児童を見守りながら記録が入力でき、また支援会議に直接内容を打ち込んで記録がとれることから記録に要する業務時間の短縮になっている。
PC での入力に慣れていないパート職員がタブレットを使用することで記録業務が簡単になり時間もかからなくなった。音声入力も使いやすい。
- 親愛の里松川（障害者支援施設）

今まではケース記録、指示連絡事項、申し送りなどの入力のため、パソコンがある事務室やワーカー室まで行って入力していたが、持ち運びできるタブレットの活用によって、支援のその場で入力ができるため省力化できる。

また、従前は記録入力時間を別途設けていたが、タブレットを導入することで、見守り支援中に記録入力ができるようになり、効率化と時間短縮につながった。Bluetooth接続の体温計と連携することにより、検温のデータが自動で入力されるので記録ミスがなくなり、また、手書きによる紙媒体の保存もなくなり効率化した。

- 親愛の里紙ふうせん（就労継続支援B型）

一から設定をしなければならないのは大変であった。IC機器に不慣れで苦手意識を持っている職員がいるので浸透・利用までに時間がかかった。

複数の機器で一気に記録ができる、またいつでも確認ができるので業務時間の効率化と情報共有のしやすさが図られた。

一度入力をすれば、業務日誌・ケース記録・工賃計算の試算元等幅広い用途で役立つのでロスが少ない。

- 親愛の里夢工房（生活介護）

タブレットの入力を誰もができる体制が取れて、分担して記録の入力ができるようになった。

夕方のミーティングの時間を短縮して情報の共有ができる。

超過勤務の削減ができた。時間内で記録をする習慣化し業務効率化を考えることができた。

- コーポヘルメス（共同生活援助）

ICT導入に対する苦手意識や操作方法等に不安を抱く職員が一定数おり、紙での事務作業に執着する方がいたため、浸透・利用までに時間がかかる。

音声入力による入力時間の短縮ができた。

手書きメモによる情報伝達からタブレット画面、パソコン画面での情報共有による手書き時間の削減、Bluetooth体温計での手書き転記不要による時間短縮ができた。